2026年4月15日
第197号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本
発行人 椀田優一
編 集 情宣担当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

イーハトーブ

4月15日号

4月、いわゆる春と言われる季節となった。大地に多くの若葉が芽吹き、花も咲く。そして、それらを草食動物が食む。その草食動物は肉食動物に捕食される。捕食と被捕食の関係、いわゆる食物連鎖である。原始の時代に人類はどこに位置していたか。肉食動物に捕食される位置であったろう。その位置を変えたのは道具を、特に火を操れるようになったことが大きい。水を沸かすことによって得た力、蒸気機関の発明から近代化が進んだ。

近代化により生存欲求を膨らませた結果、食物連鎖のバランスを崩しただけでなく、地球という生存圏までも壊してしまった。だが自然と人間の関係の尊さを感じ取った人たちによって、それは改善されている。私たちは自分にできること、まずは自然を肌で感じることである。

心ある人がいる一方で、生存権とはかけ離れた思想が地球上に火種を撒いている。大きくはウクライナへのロシアによる軍事侵攻、イランに対してイスラエル・アメリカによる軍事攻撃である。太古の時代、人類は生きるために火を使った。今、戦地で使われている火は、命を奪うために使われている。戦闘地域では軍人だけではなく、民間人、そして年齢に関係なく命の灯が消えている。

20世紀、人類は命を奪う新たな火として、原子力を手に入れた。広島や長崎で示された原子力の強大なエネルギーは、命を奪う兵器から、生きるための火として発電所に転用された。しかし、ひとたび制御を誤れば、その被害の回復に計り知れない時間と労力が必要となることは、チェルノブイリ(チョルノービリ)原子力発電所や福島第一原子力発電所の現状が物語っている。それだけではなく、その地で生きてきた人々の思いや自然に思いを馳せなければいけない。

火種は人が撒いている。その事を意識し、私たちは報道が何を伝えようとしているか、政治家が何について発言しているか見極めねばならない。踊らされないために。生存欲求、普段は意識していないが食事・睡眠・安全・健康など生命を維持するために必要なものを人は本能的に欲している。この当たり前のものを守る為に、職場での出来事を話し合っていこう。なぜならば、火種は職場にもあるからだ。(Y・H)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。